

神とは ～異邦人のための説教～

シリーズ～続 福音の力～

2021/9/12

文化の都アテネに来たパウロ

- 幻を見てマケドニアに渡る
- フィリピ
 - 投獄されるも看守とその家族が救われる
- テサロニケ
 - 多くの異邦人が信仰に入ったがユダヤ人に妨害される
- ベレア
 - テサロニケからユダヤ人が邪魔しに来る
- パウロー人でアテネに



フィリピ



テサロニケ



ベレア



トロアス



アテネ



使徒言行録 17章16～34節

パウロはアテネで二人を待っている間に、この町の至るところに偶像があるのを見て憤慨した。それで、会堂ではユダヤ人や神をあがめる人々と論じ、また、広場では居合わせた人々と毎日論じ合っていた。また、エピクロス派やストア派の幾人かの哲学者もパウロと討論したが、その中には、「このおしゃべりは、何を言いたいのだろうか」と言う者もいれば、「彼は外国の神々の宣伝をする者らしい」と言う者もいた。パウロが、イエスと復活について福音を告げ知らせていたからである。そこで、彼らはパウロをアレオパゴスに連れて行き、こう言った。

「あなたが説いているこの新しい教えがどんなものか、知らせてもらえないか。奇妙なことをわたしたちに聞かせているが、それがどんな意味なのか知りたいのだ。」すべてのアテネ人やそこに在留する外国人は、何か新しいことを話したり聞いたりすることだけで、時を過ごしていたのである。パウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつまい方であることを、わたしは認めます。道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見ていると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。

この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。また、何か足りないことでもあるかのように、人の手によって仕えてもらう必要もありません。すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。神は、一人の人からすべての民族を造り出して、地上の至るところに住まわせ、季節を決め、彼らの居住地の境界をお決めになりました。これは、人に神を求めさせるためであり、また、彼らが探し求めさえすれば、神を見いだすことができるようにということなのです。実際、神はわたしたち一人一人から遠く離れてはおられません。皆さんのうちのある詩人たちも、『我らは神の中に生き、動き、存在する』『我らもその子孫である』と、言っているとおりです。

わたしたちは神の子孫なのですから、神である方を、人間の技や考えで造った金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。さて、神はこのような無知な時代を、大目に見てくださいましたが、今はどこにいても皆悔い改めるようにと、命じておられます。それは、先にお選びになった一人の方によって、この世を正しく裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの確証をお与えになったのです。」死者の復活ということを知ると、ある者はあざ笑い、ある者は、「それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう」と言った。それで、パウロはその場を立ち去った。しかし、彼について行って信仰に入った者も、何人かいた。その中にはアレオパゴスの議員ディオニシオ、またダマリスという婦人やその他の人々もいた。

アテネでのパウロ

- アテネはギリシャ文明の中心地で、学問や芸能、宗教など**文化の豊かな都**であった
- パウロは町に**偶像**が満ちているのを見て「憤慨した」(3万以上あった?)
- 会堂ではユダヤ人や改宗者、**広場**では居合わせた人々と毎日論じ合った
 - その中にエピクロス派とストア派の哲学者がいた
 - エ) 快楽主義 ス) 禁欲主義
- **アレオパゴス議会**で話すことに
 - アテネの政治・宗教・教育の中心地

アレオパゴスの丘





パウロが説教した場所？

神とは≫創造主であり自存

- アテネ人を「信仰のあつい方」と持ち上げる
 - 『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたく本当は憤慨したのにつかみに使った
- 「知らずに拝んでいるもの」こそ**創造主**である
 - 「世界とその中の万物とを造られた神」
- 建物もお供え物も要らない
 - 「手で造った神殿などにはお住みになりません」
 - 「人の手によって仕えてもらう必要もありません」
- 命をはじめ全ての**与え主**である
 - 「すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださる」

神とは≫ 出会うことのできる方

- 神はそれぞれに時と時代を与えられた
 - 誰一人偶然そこにいるわけではない
- 神は私たちの近くにおられる
 - 「探し求めさえすれば、神を見いだすことができる」
 - 「神はわたしたち一人一人から遠く離れてはおられません」< 拝みに行く必要はない！
- 人間は神とつながっている
 - 『我らは神の中に生き、動き、存在する』『我らもその子孫である』(ギリシャ詩人の詩)
 - 「人間の技や考えで造った金、銀、石などの像」であるはずがない

神とは➤裁き主・救い主

- 「悔い改め」を求めておられる神
 - 神に対する無知の時代は終わった
 - 創造主に正しく向き合わなければならない
- 「この世を正しく裁く日」が決められた
 - 「先にお選びになった一人の方」によって
 - イエス・キリストの十字架の贖いによって、すべての人に救いの道が備えられた
- キリストの復活がその証拠である
 - 「神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの確証をお与えになった」
 - 永遠の命の希望がある

信じなかった人・信じた人

➤ 信じなかった人

- 「死者の復活ということを聞くと、ある者はあざ笑い、ある者は、『それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう』と言った。」

➤ 信じた人

- 「信仰に入った者も、何人かいた。その中にはアレオパゴスの議員ディオニシオ、またダマリスという婦人やその他の人々もいた。」

神とは

➤ 創造主である

- 万物の起源でありこれを保っておられる方
- 人間を創造し、命を与え、地上に住まわせた方

➤ 出会うことのできる方

- 「探し求めさえすれば、神を見いだすことができる」
神とは ~ 異邦人のための説教 ~
- 私たちの近くにおられ、私たちもそれを感じている

➤ 裁き主であるが救い主である

- 「この世を正しく裁く日」が決められている
- すべての人に救いの道が備えられている
- イエス・キリストの死と復活がその証拠である

神とは

➤ 創造主である

- 万物の起源でありこれを保っておられる方

➤ あなたはあざ笑いますか、

それとも悔い改めて

➤ 正しい信仰に入りますか？

- 「この世を正しく裁く日」が決められている
- すべての人に救いの道が備えられている
- イエス・キリストの死と復活がその証拠である